

杉原幸壽さんの取り組み



身近なところから水と土を守る

近年、農業や化学肥料を使うことにより、農地の地力が弱まってきました。地力の弱まった農地は、水はげが悪く、土砂崩れ等の災害を起こしやすくなってしまう。

杉原さんは、そのことを深刻に受け止め、まずは自分の周りから始めようと考えました。

そして現在、地元農地の地力を取り戻すために、農業を使わない農業、完全無農薬栽培による「ふれあい農園」で実践しています。

熊本県内各地には、水と土を保全する活動をしている方がたくさんいます。今回は、その中の一人、菊水町の「ふるさと・水と土指導員」、^{*}「ちがたん共和国」幹事長など、精力的に活動されている杉原幸壽さんについて紹介します。

農園の土に自家製の堆肥やEM菌を入れたり、農業用水に木炭を通して浄化した水を使ったりして、農薬を使わずに出来るだけ自然に地力が回復するよう努めています。

この取り組みを始めて5年。現在では、

農園の土の水はげが、目で見てはつきりとわかるほど良くなりました。

完全無農薬栽培の恵み

ふれあい農園で出来る完全無農薬栽培の野菜は、形が曲がっていたり、虫に食われていたり、スーパードに並ぶ野菜に比べれば見かけは劣ります。

しかし、味は本物。野菜そのものの味が濃く、自然の深い甘みを感じられるのです。「農園で育った白ネギを焼いて少し醤油を垂らして食べる、これほどの贅沢はありません。」そう言う杉原さんはとてもうれしそう。

「参加者の方が、どんなに小さな野菜でも、収穫して家に持ち帰り、料理をして食べたとき、嬉しそうに話してくれるんですよ。そんな話を聞くのも楽しみなんです。」と満面の笑みを浮かべて話してくれました。

細く、そして長く

杉原さんのご自宅の窓からすぐ見えるところに、このふれあい農園があります。「無理せず、楽しく、ゆつくり」というのが杉原さんが考えるこの活動のモットー。

そのため、参加者は知人の知人の……と年々その輪を広げ、現在では多い時で30名ほどの人々が集まります。メンバーも、赤ちゃんからお年寄りまでと年齢の幅は広く、更には、アメリカやインド、ブラジルの人もいて、その国籍も多様です。「『よかとき よかしこ きなっせ。』

と言ってるんです。来たい人が来て、出来る時に、出来ることをすればいいんですよ。」と杉原さんは優しい声で話してくれました。

自分で考え、感じて欲しい

種まき、苗とり、田植え、草刈り、稲刈り・掛干し、脱穀……ふれあい農園では年に8回程度の活動を行っています。

「指導するのは最低限のことだけ。出来る限りしたいようにしてもらっています。どんなに小さい子でも、自分で考えて、自分でしてみる、そしてまたそこで考えて……とね。」熱い眼差しで杉原さんは話してくれました。

言われるがままではなく、自ら考えながらすることで、たくさんを感じながら体験して欲しい、杉原さんの言葉にはそんな願いがこめられているようです。

そうして、参加者は年数回の体験を通して、2年目には先生として新しく活動に参加する人に教えるほどにもなります。



杉原さんの自宅では、ソーラー発電やたい肥づくりをしている

「ベテラン」に学ぶ

初めて農作業をする人だけをターゲットにしているわけではありません。地元の色々なノウハウを持った人にも呼びかけ、一緒に活動しています。

「『昔取った杵柄』の人をどんどん巻き込んで活動していきたいんです。私も勉強になるし、きつと『ベテラン』の方もやり甲斐を感じてくれていますよ。」

このようにして、杉原さんは地域の人を巻き込みながら、活動の輪を着実に広げています。

「キャッチボール」から生まれるもの

杉原さんは、こういった体験活動も大切だが、それ以前にもっと大切なものがあると言います。

「『キャッチボール』。コミュニケーションの中で生まれる、人と人との繋がりはです。」



とても時間と手間が入りますが、そうやってじっくりと育てられた人と人との繋がりは、きつともものすごい強さを持つことでしょう。

最近では、杉原さんはNPOを立ち上げ、活動の規模を更に拡大しようとしています。

地球規模の活動の拠点に

杉原さんに、今後の活動の展望について尋ねてみました。すると、「この農園を拠点として、たくさんの方のキャッチボールをしながら、水と土の力を取り戻す活動の輪を広げていきたいです。」そう言っています。杉原さんは目を細めます。

農地の再生が、水と土を守り、ひいて



無農薬でのびのびと育つ野菜

は地球環境、そして私たち人間を守ることにへと繋がっていく。そう考えると、とても大きなことに取り組まれていると感心させられます。

「まずは身近なことから実践し、徐々にその輪を広げていきたい。」

強い信念を持って話される杉原さん。温かく注がれる視線の先には、窓の外の畑で、土にしっかりと根を張りのびのびと育つ野菜がありました。

※ふるさと・水と土指導員

熊本県が認定した、地域の農地、土地改良施設といった水と土を保全する活動を行う人のこと。

☆「ちがたん共和国」について

今から20年ほど前のことです。農業では化学肥料や農薬がどんどん使われ、環境はますます悪化するばかり。更には農業の後継者不足による食糧自給率の低下、「食」という必要不可欠な部分を、私たちは疎かにしつつあるのではないかと、杉原さんは考えました。

そして、農薬等を使わずに水と土の力を甦らせ、自給自足を可能にしたいという目的の元に、平成元年4月24日、地元有志が集まり「ちがたん共和国」を建国。杉原さんはその「幹事長」をしています。

この「ちがたん」というちょっと聞き慣れない言葉。そこには大切な意味が込められています。

昔、集落にある洞窟の中で、女性たちが子守をしながら色々な話をしていました。このことから、そこを「知恵の谷」と呼び、「知恵の谷」→「ちがたん」へと変化したと言われています。そこから名前を取って、みんなが話

し合い知恵を出し合いながら保全活動を進めていこうと「ちがたん」共和国としました。

現在、ちがたん共和国は、杉原さんを中心として多岐に渡る農地等の保全活動を行っています。



ふれあい農園での炭づくり

